



2021年  
(令和3年)  
秋号  
Vol.9

枚方市議会議員

# 奥野みか

すべての人々が、「今」を輝いて  
生きていける社会をつくる

- 奥野みかの活動報告(トピックス)  
～みんなが安心して暮らせるまちのために～
- 奥野みかの議会質問  
(9月定例会議会)  
～つなげる・つながる  
仕組みの構築を～
- 奥野みかの一般質問  
(質疑のポイント)



## 奥野みかの活動報告(トピックス) ～みんなが安心して暮らせるまちのために～

### 総合文化芸術センター開館 変わる枚方市駅周辺

構想から20年以上を経て、待望の「総合文化芸術センター」が枚方市駅北側に開館し、8月30日に記念式典が行われました。緊急事態宣言のもとでの制限等もありましたが、9月には13日間にわたる開館記念の市民総合文化祭も行われました。市民の文化・芸術発信の拠点施設となることを心より願っています。

なお、10月から来年3月まで、別館(旧メセナ枚方会館)は改修のため休館となります。この間のバックアップ機能を担った後の来年4月に、枚方市市民会館本館が廃止されます。市民会館大ホールは9月末で廃止されていますが、1965年の本館開館以降、長年の感謝の意をこめて、閉館記念誌が発行されています。



『ありがとう市民会館』



また、41年間の歴史を振り返るポスター展を経て「枚方市民ギャラリー(サンプラザ3号館5階)」が9月末で閉館しました。10月以降は、男女共同参画活動ルーム、国際交流推進ルーム、図書館市駅前サービススポット、枚方市勤労市民会事務所として活用されます。

### 2020年度(令和2年度)決算の概要

市の2020年度(令和2年度)決算ですが、一般会計の実質収支は17億円の黒字、単年度収支は2,800万円の黒字となりました。特別定額給付金の補助金や新型コロナ対策にかかる地方創生臨時交付金など国補助金が471.7億円の増(170%)、総合文化芸術センター整備事業などで市債が40.4億円の増(37.1%)が増収の大きな要因で、新型コロナの影響等により、自主財源である市税収入は8.2億円の減収(△1.4%)となっています。

10月の市議会決算特別委員会で審査されますが、私は、翌年度精算となる国補助金や基金の管理状況、新型コロナ対策の効果等を確認が必要だと考えています。

### 「この街に住みたい基金」条例で廃止を決定

9月定例会議会で、昨年度に作られたばかりの「この街に住みたい基金」が廃止されました。「行財政改革による効果額やその用途の見える化を図るため」というふれ込みでしたが、市長が勝手に決める使い道のために、財政運営上、「無理やり集める財源」でしかなかったため、私も最初から数多くの指摘を行ってきました。

ただ、市民から指定寄附金もいただいているのですから、基金廃止の説明責任をきちんと果たし、必要な善後策を講じていただきたいと思います。

### 奥野みかの議会質問(9月定例会議会)

### ～つなげる・つながる仕組みの構築を～

新型コロナウイルス感染第5波に伴う4度目の緊急事態宣言が7月30日に発出され、9月30日まで延長される中、9月9日、9月定例会議会が開会されました。

9月8日以降、満12歳以上の全ての対象者の予約が可能となり、市は11月までに希望する全ての方がワクチンを接種できる取り組みを進めるとしています。

医療体制、検査体制の強化、保健所機能の強化はもちろん、引き続き、社会機能の維持や市民の暮らしを守る取り組みが求められているところです。

今議会に提案された新型コロナ関連の補正予算額(第6・7弾)は約10.9億円(今年度これまでに約84.1億円)となっています。



9月21日の一般質問で私は、新型コロナウイルス感染症の「自宅療養者」や陽性妊産婦に対する支援、国際化施策、外国につながる子どもの就学支援、マンションの管理適正化の推進など6項目の質問を行いました。質問では、誰もが安心して暮らすことができるよう、誰一人取り残さない、取り残されない、つなげる・つながる仕組みを構築するための施策の展開を求めました。

(※裏面に9月定例会議会の一般質問の質疑のポイントを掲載)

奥野みか ホームページ・フェイスブック

～皆さまのご意見・ご要望もお聞かせください～

<https://okuno-mika.com>

<https://www.facebook.com/mika.okuno.338>



## 奥野 みか

## 9月定例会議会 一般質問

**ポイント**／「自宅療養」が自宅放置にならないよう、在宅医療も含めた地域医療体制の構築を

(質問:新型コロナウイルスの「自宅療養者」を支える体制)

新型コロナに感染した時の「自宅療養者」とは、入院・宿泊療養となる人以外のことで、無症状または軽症、そして基礎疾患の有無や同居家族の状況等、さまざまな条件を踏まえて保健所が決定します。

「自宅療養者」に対しては、訪問看護師が対面で健康観察や感染対策の指導・助言を行い、急変時には、市内医療機関による外来診療や往診、電話やオンラインによる診療、また、夜間・休日のファストドクターの往診等を、状況に応じて保健所がつないできました。

今後も様々な構えが必要であるとの答弁でしたが、感染症と専門的な疾病・疾患の治療、感染症と心身の障害、感染症と小児・妊産婦など、複合的な医療対応が必要な方が適切な医療につながるよう、在宅医療体制の構築も含めた地域医療体制の確立を要望しました。

**答弁(保健所長)**／専門的な基礎疾患やがんなどの治療中、分娩予定近くの方など複合的な医療対応が必要な方については、その方の状況に応じて主治医等と連携して必要な治療が受けられるよう対応している。

**ポイント**／生まれてくる命の安心も。陽性妊産婦の確実な受け入れを市立ひらかた病院に期待する

(質問:新型コロナウイルスに感染した妊産婦に対する支援)

今年8月、千葉県で「自宅療養」中の妊婦が自宅で早産となり、新生児が死亡するという大変痛ましい事例が発生しました。府内の陽性妊産婦の受け入れ医療機関は22か所で、そのうち出産対応可能な医療機関は19か所(北河内は2か所)に拡充されたとのことでした。

市立ひらかた病院は、大阪府の入院フォローアップセンターの要請に応じて陽性妊産婦の受け入れも行っており、「今後においても、妊婦や乳幼児を受け入れられる医療機関が少ないといった事情も踏まえ行われる大阪府からの要請に対し、条件を問わず適切に応じられるよう努める」と答弁しました。

感染症医療と産科医療機能の両方を備え、救急対応も可能な、公的役割を担うことのできる市立ひらかた病院においては、府全体の入院調整を行っている大阪府との連携・調整、そして市内の産科医療機関との連携を図り、大きな医療体制の中での役割分担・機能分担として、いざとなれば、女性病棟全体を産科的な管理や緊急処置が必要な新型コロナ感染妊産婦の専用病棟とする体制の確立を検討していただきたいと要望しました。

**ポイント**／誰一人取り残されない、多文化共生を。このまちに住む外国人市民の安心につなげる

(質問:「国際化施策に関する考え方」について)

昨年4月に策定された『国際化施策に関する考え方』について、「多文化共生のまち・ひらかた」の実現のために適切に総括・評価し、その内容を公表すること、そしてPDCAによる実効的な進行管理を行い、昨年9月に発出された国のプランも参考に必要な改訂を行い、さらなる課題解決をめざしていただくよう要望しました。

また、(公財)枚方市文化国際財団の解散に伴い、財団から寄附収受した3億円余は、一般財源に組み入れるのではなく、財団の設置目的であった国際交流や文化振興に資する財源となる「特定目的基金」とするよう要望しました。

**ポイント**／すべての子どもたちに教育の保障を。就学につながる取り組みの徹底を要望

(質問:外国につながる児童、生徒の就学支援について)

国籍に関係なく、すべての子どもたちに教育が保障されるために、就学状況の把握ができているのかを教育委員会に確認しました。



**答弁(学校教育部長)**／国の「外国人の子供の就学促進及び就学状況の把握等に関する指針」を受けて、今年度から、新入学年齢相当の外国籍の子どもの学齢簿を作成し、保護者や学校から情報提供があった際は、記録を残し就学状況把握に努めている。

**ポイント**／激甚化する水災害に対する効果検証も。効果的な維持管理・更新の仕組みづくりを要望

(質問:雨水流出抑制施設の現状と今後の課題について)

雨水等の保水・遊水機能の確保と増大を目的として設置されてきた雨水流出抑制施設の構造型式や規模は多様で、現在、市内261か所のうち約84%の施設は市が維持管理を行っていますが、約16%の施設は、建物の地下貯留槽になっている等、市に移管・寄附できない構造型式で、民間が管理しています。

課題がある管理方法の整理を要望するとともに、民間による設置や維持管理に対する財政的支援も必要ではないかと意見しました。

**ポイント**／建物の老朽化と高齢化の「二つの古い」。マンション管理に潜むリスクの認識は待たなし

(質問:マンションの管理の適正化の推進について)

区分所有者の高齢化、若年層の減少の他、空き室や賃貸などによる非居住化の進展、管理組合の担い手不足等、マンション管理のリスクは喫緊の課題となっています。

昨年6月、適切な管理を行政も後押しする「改正マンション管理適正化法」が成立しました。法改正の目的を踏まえた施策の具体化を要望しました。